【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年1月10日(2025.1.10)

【公開番号】特開2023-70697(P2023-70697A)
【公開日】令和5年5月22日(2023.5.22)
【年通号数】公開公報(特許)2023-093
【出願番号】特願2021-182951(P2021-182951)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　5/022(2006.01)
Ａ６１Ｂ　5/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/022400Ｈ
Ａ６１Ｂ　5/022400Ｍ
Ａ６１Ｂ　5/022400Ｂ
Ａ６１Ｂ　5/02　３１０Ｖ

【手続補正書】
【提出日】令和6年12月26日(2024.12.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
第１脈波センサ１０１及び第２脈波センサ１０２は、心臓の拍動によって生じる動脈の脈拍の変化を捉えた波形である脈波を検出するセンサである。ここでは、脈波には、動脈の内圧変化の波形である圧脈波と、動脈の容積変化の波形である容積脈波が含まれる。圧脈波を検出する脈波センサとしては、トノメトリ方式、圧電センサを用いる圧電方式等がある。容積脈波を検出する脈波センサとしては、インピーダンスの変化として検出するインピーダンス方式、発光素子と受光素子を用いて反射光又は透過光により容積変化を検出する光電方式、電波を送信する送信素子と反射波を受信する受信素子を用いて送信波と反射波の位相のずれとして容積変化を検出する電波照射方式等がある。
第１脈波センサ１０１及び第２脈波センサ１０２が配置されるべき、被験者の部位は適宜に設定できるが、第１脈波センサ１０１を心臓により近い位置、第２脈波センサ１０２を心臓からより遠い位置、すなわち、第１脈波センサ１０１を動脈の上流に配置し、第２脈波センサ１０２をその下流に配置するというように、同一の拍動に対する脈波の到達時間が異なる部位に配置する。ここでは、第１脈波センサ１０１及び第２脈波センサ１０２が、それぞれ本発明の第１脈波検出部及び第２脈波検出部に相当し、両者が本発明の脈波検出部に相当する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】
次に、関係決定部１０５は、２点のＳＢＰに対応するＰＴＴｓｂｐを取得したか否かを判断する（ステップＳ４）。また、１点のＳＢＰに対応するＰＴＴｓｂｐしか取得されていない場合には、ステップＳ１に戻る。２点のＳＢＰに対応するＰＴＴｓｂｐを取得している場合には、ステップＳ５に進む。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５３】
　このようにしてフィッティングされたＤＢＰとＰＴＴｄｂｐとの対応関係（直線Ｌ２）を記憶部１０４に保持しておくことにより、推定血圧取得部１０６はこの対応関係を参照し、特徴量算出部１０３によって連続的に得られるＰＴＴの算出値から高精度のＤＢＰを連続的に算出することができる。
　また、このように、ＰＴＴとＤＢＰとの対応関係を校正するためのレファレンスとして、聴診法を用いて特定の１回の拍に対応したＤＢＰを得ることにより、呼吸性変動のような血圧変動がある場合でも各時刻における正確なレファレンスが得られ、短時間での校正処理が可能となる。